

安否確認の方法を家族で決めておこう

家族が別々の場所にいるときに災害が発生した場合に備え、事前に連絡方法や集合場所などを話し合っておくことが大切です。携帯電話は災害時につながりにくくなります。安否確認には「災害用伝言ダイヤル(171)」などのサービスを利用しましょう。

もしもの時は家族の安否が一番気掛かりです。でも、すぐに駆け付けることができないかもしれません。日頃から災害時の集合場所などを家族で決めておくと安心ですね。



高見勇士さんご家族(吉竹町)



みんなで考えよう わたしの避難対策

9月1日は
防災の日

全国で豪雨による河川の氾濫や土砂崩れ、地震といった大きな災害が発生しています。小松市でも8月8日、台風5号の影響により河川が急激に増水したため、梯川流域エリアに避難勧告を発令しました。災害はいつでも、どのように私達を襲ってくるかわかりません。

災害から自分の身を守るには、危険な状況になる前にいち早く安全な場所に避難する必要があります。そのためには、普段から災害に対する準備や心構え、防災の知識を取り入れておくことが大切です。いざという時にどう行動すれば良いのか、今一度確認しましょう。

問い合わせ 防災安全センター ☎24・8150

市から発令される避難情報を逃さないで

【避難情報の種類と段階】 避難の呼び掛けには次の3段階があります。これらの情報は、防災行政無線を始め、テレビやラジオ、インターネットなどを使って発信します。

危険度

高

避難準備・
高齢者等
避難開始

いつでも避難ができるよう持ち出し品などを準備してください。身の危険を感じる人、避難に時間が掛かる人(高齢者、障がいのある人、乳幼児など)は避難を開始してください。

2
避難勧告

災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合に発令。速やかに指定避難所や安全な場所に避難してください。

3
避難指示
(緊急)

災害が発生するなど、さらに状況が悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合に発令。まだ避難していない場合は、直ちに避難をしてください。

ただし、

- ◆避難所までの移動が危険な場合
近くのより安全と思われる建物(最上階が浸水しない建物、川沿いでない建物など)に移動する。
- ◆建物から出ることが危険な場合
建物内のより安全と思われる部屋(上層階の部屋、山からできるだけ離れた部屋)に移動する。
タイミングを逃さず、早めの避難を心掛けましょう。

情報は待つだけではなく自分で入手しよう

大雨警報や土砂災害警戒情報などが発表された時は、今後の情報に十分留意してください。

【主な情報ツール】

- 防災行政無線
- テレビ(ニュースや天気予報番組のほか、データ放送では気象情報や防災情報を常時放送)、ラジオ
- 市ホームページ「小松市の防災情報」
<http://www.city.komatsu.lg.jp/3345.htm>
- 「石川県消防防災Web」 <http://www.bousai.pref.ishikawa.jp/>
- 「気象庁ホームページ」 <http://www.jma.go.jp>
- 「国土交通省防災情報提供センター」 <http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>

市消防本部では、電子メールによる防災情報の配信も行っています。ぜひ登録ください。

この9月で防災行政無線の全世帯への整備を完了します。災害情報などを皆さんのご家庭にいち早く届けます。避難や防災などの様々な情報は自発的に収集するという意識を持つことが大切です。状況を知ることによって早い避難行動が可能になり、被害の軽減につながります。



防災安全センター
酒井勝義さん



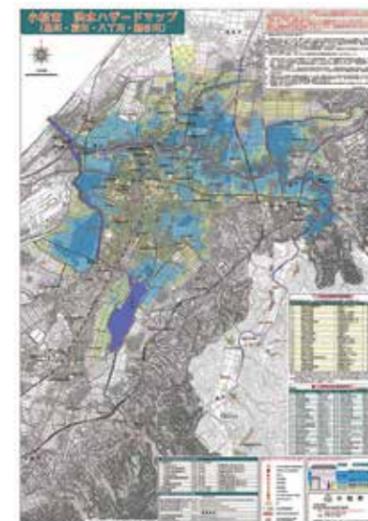
ハザードマップで確認を

洪水・地震ハザードマップなどで、自宅や学校、職場、またその近くに浸水や土砂災害などが起こる可能性や危険があるのかどうかを確認しておきましょう。

洪水ハザードマップ▶

大雨で河川が増水して堤防が決壊した場合の予想に基づき、浸水の範囲や深さのほか、洪水時の避難所を示したものです。梯川は100年に1回程度、前川、八丁川、鍋谷川は50年に1回程度起こりうる規模の大雨を想定しています。市ホームページでも見るすることができます。

また、全国的に集中豪雨やゲリラ豪雨による洪水被害が発生していることから、1000年に1回程度の最大規模の大雨を想定した「梯川の洪水浸水想定区域図」が新たに公表されました。国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所のホームページで確認できます。



非常持ち出し品を準備しよう

指定避難所にはある程度の備蓄はあるものの、それが全ての人に行き渡るとは限りません。避難所生活に必要なものをリュックサックに詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるように備えておきましょう。

非常食や水はもちろん、赤ちゃんのおむつなど家庭ごとに必要なものも忘れずに。



(最低)
× 3日分

そのほか懐中電灯や携帯ラジオ、衣類、現金、医薬品なども準備しておきましょう。



危険箇所や避難経路などをまとめた「矢沢町版地震ハザードマップ」を町独自で作成しました。地道ではありますが、防災士としてハザードマップの重要性や、日頃からの準備の必要性を地域の皆さんに伝えていきます。災害が起こった時の状況を前もってイメージしておくことが大事だと思います。

矢沢町自主防災委員会委員長
瀬川裕治さん(防災士)

